

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	永田 純美	職名	助手	学位	修士 (栄養科学) (中村学園大学 2010 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
スポーツ栄養学 運動生理学	スポーツ、健康増進、生活習慣病

研 究 課 題
スポーツ選手の栄養摂取状況及び血中脂質、貧血の関係

担 当 授 業 科 目
給食経営管理実習Ⅱ (3 年 前期) 給食経営管理実習Ⅰ (2 年 後期) 総合演習Ⅰ (3 年 前期) 食品栄養実習 (2 年 前期) 応用調理学実習 (1 年 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ】 給食経営管理実習Ⅰは、学生にとって初めての給食実習であり、演習で行う帳票作成や発注計算は理解が困難な学生も多い。そのため演習の際は、グループだけでなく学生一人一人に声掛けを行い、理解度の確認を行った。また、授業時間外も質問を受け付け、帳票の意味や作成根拠を踏まえて説明した。給食実習は調理実習と同じく調理を行うが、食品の取り扱いや、調理工程、衛生管理ポイントなどが異なるため、調理実習との違いを説明しながら作業を進めた。大型機器や火力の強い調理機器を使用するため、安全面は常に注意し、学生が使用する際は必ず教員と共同で行うよう指導した。 給食経営管理実習Ⅱは、時間内に調理し、食事提供を行う実習である。そのため、作業工程や時間の管理が重要であり、学生一人一人の取り組みが、全体の進行度に影響を与える。特に調理作業が遅れている学生には技術指導や効率的な方法をアドバイスし、全体的な遅れが出ないように留意した。時間に追われることや、責任感を求められることもあり、学生は緊張した状態で実習に臨む。過緊張は調理ミスやケガの原因につながるため、進行状況やメンタル面の把握も踏まえ、できる限り全員の学生に声掛けを行い、緊張をほぐすよう努めた。 両実習共に、実習後の後片付けは、時間割の都合上短時間で行わなければならない。学生には最後までやり抜く力や集中力を身につけてもらうため、学生一人一人に的確に指示を出し、最後まで全員で作業を行うように促した。学生も次第に要領を得て、自主的に行動できるようになった。
授業科目名【総合演習Ⅰ】 臨地実習に臨むための演習であるため、学生に提出物の提出方法や期限の厳守、報告・連絡・相談を行うよう促した。また、実習の持参物などの購入忘れがないよう、こまめに連絡を行った。栄養指導の媒体作成や、発表の際にはアドバイスをを行った。

授業科目名【食品栄養実習】 事前に試作を行い、作業工程と出来上がりを確認した。また、時間のかかる作業は効率的に行えるように作業工程を計画し実行した。 示範は学生の理解が深まるよう、作業工程だけでなく、どのような化学変化が起きているか観察や記録のポイントなどについての説明も行いながら進めた。 実習中は、学生の作業の進み具合を確認し、特に失敗しやすい工程や重要なポイントは声掛けをした。また、結果だけでなく作業中の食材の変化も記録するよう促した。加工食品を製造する実習であるため、手洗いや食材の取扱い衛生面に注意するよう。
授業科目名【応用調理学実習】 食品の取り扱いや切り方などの技術指導、安全面や衛生面の確認、手が空いている学生には声掛けを行い、全員全員が実習に参加するよう促した。2年生からは給食経営管理実習が始まるため、衛生管理（食品の扱い、爪・髪の毛など）を徹底した。特に食材の分配は食品間での汚染を避けるため、加熱調理する食材は各班バットにまとめて分配を行い、肉・魚類、加熱調理しない食品は食品毎に分配または各班取りにくるように指示した。後片付け、掃除に関しては、自主性を促すため助手が全てを行うのではなく、具体的な指示を出し、自ら進んで行うよう指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会 日本栄養改善学会 日本給食経営管理学会	正会員 正会員 正会員	2017年4月～現在 2019年7月～現在 2022年4月～現在

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～参加回数が食嗜好および生活習慣改善に及ぼす影響～	共著	2022年12月	第22回国際栄養学会議	①西南女学院大学栄養科学科と九州歯科大学口腔保健学科は、2014年から北九州市で地域住民の生活習慣改善に関する地域密着型食育活動を開始した。食育活動の評価として、本講座への参加回数の違いによる食の好みや生活習慣改善への影響をアンケート結果で検討した。 ②田中貴絵, 近江雅代, 境田靖子, 田川辰也, 辻澤利行, 引地尚子, 中道敦子, 手嶋英津子, 石井愛子, 永田純美

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	地域貢献活動	○坂田郁子 高崎智子 木村宏和 船越淳子 西村貴子 永原真奈見 石井愛子 永田純美 竹下諄美 矢野夏実 伊東由里子 (邵 仁浩) (中道敦子) (船原まどか) (辻澤利行)	50,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
・2022 グリーンパーク食育事業 (さつまいもの収穫、食育実習) ・井筒屋×西南女学院大学コラボおせち		2022 年 11 月 5 日 2022 年 11 月 12 日 2022 年度

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
国試対策委員 教職員懇親会 3 年生サブアドバイザー